

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

山形県寒河江市立醍醐小学校 教諭 小関 直幸

1. 単元名「慈恩寺の魅力を発信して、醍醐地区を盛り上げよう ～目指せ！慈恩寺子どもガイド～」

2. 単元の目標

- ・慈恩寺の古く長い歴史、貴重な文化財や優れた自然資源、それらを保全・復元してきた人々の努力や工夫について理解する。 (知識・技能)
- ・慈恩寺を活用した持続的な地域活性化に向けて、慈恩寺を保全・復元してきた人々からその価値を学び、ガイドを通して慈恩寺の魅力を伝える。 (思考・判断・表現)
- ・慈恩寺の歴史、文化財や自然資源について調べたり、それらを保全・復元してきた人々の思いについて考えたりして、地域の一員として慈恩寺を未来へ残していこうとする態度をもつ。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第2の3(4)目標を実現にするにふさわしい探究課題「地域や学校の特色に応じた課題」にあたる。

慈恩寺は、746年に聖武天皇の勅命により、インド僧婆羅門によって開山された、1300年の歴史をもつ寺院である。また、国、県、市が定める数多くの文化財を保有していることや、広大な慈恩寺旧境内にすぐれた自然資源を有していることから、平成26年度に国史跡に指定された。この指定を受け、寒河江市では、寒河江市慈恩寺「悠久の魅力」向上基本計画を策定し、国、県及び関係団体等の協力を得て、新たな観光拠点の柱として各種整備を実施している。時代の流れや環境の変化などに伴い重要な資源が損なわれつつあること、醍醐地区の人口減少や高齢化などにより地域の活力が低下しつつあることを改善できるよう、慈恩寺蓮池の再生、大晦日の慈恩寺境内での花火大会、六地藏ウォークラリー、慈恩寺本山の秘仏公開やライトアップなどを行っている。

また、「時をつなぐ、場をつなぐ」をコンセプトに慈恩寺の魅力を紹介する慈恩寺テラスが今年度の5月にオープンしたこともあり、慈恩寺を活用して醍醐地区や寒河江市を盛り上げていこうという機運が高まってきている。

(2) 児童観

児童はこれまで、学校行事や地域行事などで、何度も慈恩寺を見学している。また、醍醐小学校の総合的な学習の時間では、3年生で慈恩寺蓮の再生活動、4年生で慈恩寺境内のホテルの愛護活動、5年生で慈恩寺の文化財について学習している。これまでの学習を通して、児童は慈恩寺に貴重な文化財や優れた自然資源があることは理解している。しかし、時代の流れや環境の変化などに伴い重要な資源が損なわれつつあること、醍醐地区の人口減少や高齢化などにより地域の活力が低下しつつあることや、それを改善するために寒河江市が慈恩寺を活用した持続的な地域活性化に向けた取り

組みについては知らない。慈恩寺の歴史などの「こと」や慈恩寺にある文化財などの「もの」だけではなく、慈恩寺が1300年もの長い間失われずに残ってきた背景にある「ひと」の思いに触れ、慈恩寺の魅力を主体的に発信する児童を育てたい。

(3) 指導観

第一次では、醍醐地区の現状と課題を整理する。思考ツールのウェビングマップを活用して、国指定史跡である慈恩寺があること、慈恩寺の知名度が低いことなどの意見が出されると考えられる。また、今年度慈恩寺の魅力を紹介する慈恩寺テラスができたことで、たくさんの人に醍醐地区に来てもらいたいという意見が出されることも考えられる。そこで、「慈恩寺を活用した地域づくりに取り組むために、私たちにできることはなんだろうか？」という学習問題を設定する。

第二次では、「慈恩寺を、国指定史跡にしようとするのはだれなのだろうか」という問いから、慈恩寺や慈恩寺テラスに見学に行く学習を行う。ガイドの方の話聞き、改めて慈恩寺の貴重な文化財や優れた自然資源について理解するだけでなく、地域を活性化するためにガイドするボランティアの方の思いにも触れることができると考える。また、国史跡に指定された背景に、寒河江市の取り組みに気付くことができると考える。そこで、「慈恩寺を活用した寒河江市の取り組みはあるのだろうか？」という問いから、寒河江市市役所慈恩寺振興課の方をお招きし、寒河江市慈恩寺「悠久の魅力」向上基本計画について話を聞く学習を行う。寒河江市が慈恩寺のブランド化を進める背景には、醍醐地区が衰退し、未来へ文化を継承できなくなるかもしれないということがあることを理解し、地域の一員として慈恩寺をガイドしたいという児童の思いを醸成できるようにしていく。

第三次では、「慈恩寺子どもガイドに向けて、どのようなことをすればよいだろう」という問いから、児童主体となって学習活動を計画していく。活動としては、ガイドすることを決めること、ガイドする内容を考えること、パンフレットを作成すること等が考えられる。また、出来あがったものを寺務所の方やボランティアガイドの方からアドバイスをいただきたいという児童の思いが予想されるため、学校と慈恩寺を行き来しながらガイドの内容やパンフレットの構成をリライトしていく。その後、慈恩寺境内において観光客の方々を相手に、「慈恩寺子どもガイド」を実施する。

第四次では、「醍醐地区の一員として、わたしたちは今後どのようなことができるだろう？」という問いから、学習の振り返りをする。観光客だけでなく、寒河江市の小学生やALTなど対象を変えてガイドしたいという振り返りが考えられるため、児童の思いを価値付けしながら醍醐地区の一員である私たちが、地域づくりに主体的に参加する大切さを実感できるようにしていきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性・・・地域の資源は地域の活性化と密接な関係にあり、このままでは地域が衰退してしまうこと。
連携性・・・地域づくりは、一部の人だけで行うのではなく、私たちも地域の一員として主体的に参加することが大切であること。

責任性・・・持続的な地域活性化のために私たちができることを考え、取り組んでいくことが大切であること。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

自分の地域に関心をもって生活しているかを見つめ直す。

コミュニケーションを行う力

持続可能な地域活性化のために、友達や地域の方々などと意見交流を通して自分の考えをつくりあげる。

進んで参加する態度

私たちも地域の一員として主体的に地域づくりに参加する。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

貴重な文化財や優れた自然資源を、未来へ残していけるよう考え行動する。

・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナリーシップで目標を達成しよう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①慈恩寺の古く長い歴史、貴重な文化財や優れた自然資源について理解している。 ②慈恩寺を保全・復元してきた人々の努力や工夫について理解している。	①慈恩寺を活用した持続的な地域活性化に向けて、自分たちにできることを考えている。 ②慈恩寺を保全・復元してきた人々からその価値を学び、ガイドを通して慈恩寺の魅力伝えていく。	①慈恩寺の歴史、文化財や自然資源について調べたり、それらを保全・復元してきた人々の思いについて考えたりしている。 ②地域の一員として慈恩寺を未来へ残していこうとする態度を表している。

5. 単元の指導計画（全12時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価 （△） 備考 （・）
1	○醍醐地区の現状と課題を整理する。 ・国指定史跡である慈恩寺がある。 ・慈恩寺の魅力を紹介する慈恩寺テラスができた。	・思考ツールのウェビングマップを活用して、児童の考えをつないでいきながら、視覚的に醍醐地区の現状と課題を実感できるようにする。	△ア1 ・ウェビングマップ

	<ul style="list-style-type: none"> ・慈恩寺の知名度は、それほど高くないようだ。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ○慈恩寺や慈恩寺テラスに見学に行く。 ・慈恩寺には貴重な文化財や優れた自然資源があることが改めて分かった。 ・地域を活性化するために、ボランティアの方々が慈恩寺のガイドをしているんだ。 ○寒河江市市役所慈恩寺振興課の方から、寒河江市慈恩寺「悠久の魅力」向上基本計画について話を聞く。 ・持続的な地域活性化のために、慈恩寺のブランド化を進めているんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアガイドの方から、地域を活性化したいという思いでガイドをしていることを話していただく。 ・このままでは、醍醐地区が衰退し、未来へと文化を継承できなくなるかもしれないことを話していただく。 	<ul style="list-style-type: none"> △ア2 △イ1 △ウ1 ・学習メモ
3	<ul style="list-style-type: none"> ○「慈恩寺子どもガイド」に向けて準備する。 ・ガイドの内容が正しいかどうか、寺務所の方々に確認しに行きたいな。 ・ガイドの仕方について、ボランティアガイドの方々からアドバイスをいただきたいな。 ○「慈恩寺子どもガイド」を実施する。 ・観光客の方々に、慈恩寺の魅力を伝えることができうれしいな。 ・慈恩寺のことが好きになったよ。 ・寺務所の方々やボランティアガイドの方々からほめてもらって、自信になったよ。もっとたくさんの人にガイドしてみたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寺務所の方々やボランティアガイドの方々から、ガイドの内容やパンフレットの構成についてアドバイスをいただきながらリライトする。 ・観光客の方々を相手にガイドする。 ・寺務所の方々やボランティアガイドの方々から、ガイドの様子について評価していただく。 	<ul style="list-style-type: none"> △ア1 △ア2 △イ2 ・ガイド原稿 ・パンフレット
4	<ul style="list-style-type: none"> ○学習を振り返る。 ・慈恩寺の文化や慈恩寺観光の楽しみ方をたくさんの人に知ってもらい、貴重な文化財や優れた自然資源を未来に残していきたいな。 ・校外学習で慈恩寺に来る、寒河江市の小学生にもガイドして、慈恩寺の魅力を伝えたいな。 ・5年生に「慈恩寺子どもガイド」を引き継いでもらいたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の振り返りを価値付けしながら、醍醐地区の一員である私たちが、地域づくりに主体的に参加する大切さを実感できるようにしていく。 ・「慈恩寺子どもガイド」を受け継いでほしいという思いを5年生に伝える場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> △ウ2 ・振り返りシート

5. 成果と課題

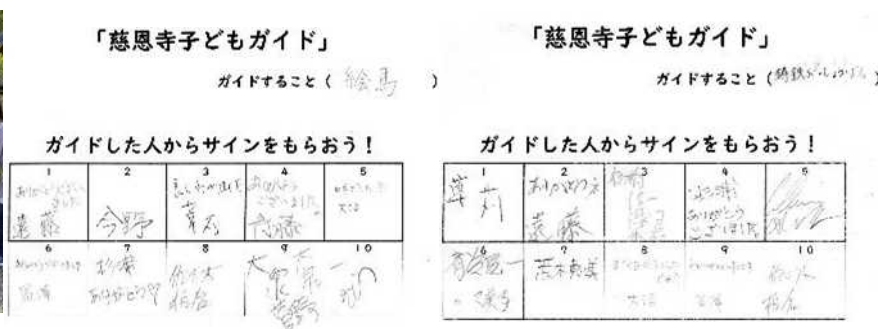
「慈恩寺子どもガイド」を通したE S Dの価値観の変容は大きく2つあった。1つ目は、慈恩寺を保全・復元してきた人々からその価値を学んだことによる、慈恩寺の魅力の再発見である。子どもたちは、時間があると慈恩寺や慈恩寺テラスに足を運ぶようになるという行動化につながった。2つ目は、地域の一員として慈恩寺を未来へ残したいという思いの醸成、「慈恩寺子どもガイド」を5年生に受け継いでほしいという思いの芽生えである。隣町の小学校から「慈恩寺子どもガイド」の依頼があり実施した際、本校の5年生も招待した。持続可能な地域活性化のために、地域づくりに主体的に参加することの大切さを、5年生と共有することができた。

本校が、慈恩寺を活用した持続的な地域活性化の一端を担っていくためには、「慈恩寺子どもガイド」を受け継いでいくことが重要だと考える。まずは、「慈恩寺子どもガイド」が持続可能な取り組みになるようなシステムを構築していきたい。また、本校は令和8年度を目途に、近隣校との統合が検討されている。教材観にも記したように、慈恩寺は醍醐地区だけでなく寒河江市の重要な資源であることから、「慈恩寺子どもガイド」のような取り組みが、本校にとどまらず寒河江市のどの学校でも取り組めるものにしていきたい。

6. 本実践を通じた考察

本単元の目標の、地域の一員として慈恩寺を未来へ残していこうとする態度をもつことができた要因は、1つ目の成果と課題にも記したように、児童が慈恩寺の魅力の再発見することができたからだと考える。慈恩寺寺務所の方、ボランティアガイドの方、コミュニティスクールの地域コーディネーターの方など、たくさんのゲストティーチャーと出会い、抱いたあこがれが、「醍醐地区の一員として、慈恩寺をガイドしたい」という子どもたちの行動化の大きな原動力になった。「慈恩寺子どもガイド」を実践する前の子どもたちにとって、慈恩寺は「醍醐地区にある歴史のある寺院」「価値が分かる人だけが大切にしているもの」程度の捉えだったが、「慈恩寺子どもガイド」を実践したことで、慈恩寺は「今日まで守り受け継がれてきた貴重な財産」と捉えるようになった。

「慈恩寺子どもガイド」の実践を終え、多くの子どもたちが「またガイドしたい」と振り返っていた。子どもたちが、これだけの手応えや達成感を得ることができた要因は、慈恩寺寺務所の方、ボランティアガイドの方、コミュニティスクールの地域コーディネーターの方など、たくさんのゲストティーチャーから、子どもたちのガイドの頑張りを評価していただいたからだと考える。また、ガイドした証に一般のお客様からサインをもらうためのカードに、「ありがとう」「すごく面白かった」「分かりやすかったです」という一つひとつの言葉も評価となり、子どもたちの手応えや達成感だけでなく、「醍醐地区の一員として、地域に貢献することができた」という幸福感にもつながった。



慈恩寺の薬師堂には、薬師如来坐像、日光・学校菩薩立像、十二神将が安置されている。薬師如来は、菩薩であった時代、如来になるために12の誓いを立てた。それを「十二の大願」という。「十二の大願」には、例えば「第6願 諸根具足…すべての人々の身体上の障害をなくす」「第8願 転女得仏…女であることによって起こる修業上の不利な点を取り除く」「第11願 飲食安楽…すべての人々が飢えや渇きに苦しむことがないようにする」のように、SDGsの17の目標と共通するところが多いことを、奈良教育大学の中沢静男准教授より教えていただいた。

慈恩寺の薬師如来坐像という「もの」から、「十二の大願」という「こと」を知り、薬師如来坐像が作られた当時の「ひと」の思いにはせることで、昔も今も人々の願いは一緒だということに気付くことができる。そこから「慈恩寺子どもガイド」の学習課題を設定していくことで、慈恩寺の貴重な文化財や優れた自然資源を、自分の世代だけでなく未来へ残していこうとするESDの価値観（世代間の公正）を、さらに育むことができる取り組みになるのではないかと考える。

「慈恩寺子どもガイド」のパンフレット

<p>寒河江市立醍醐小学校 6年生 慈恩寺子どもガイド パンフレット</p>	 <p>慈恩寺には、数多くの文化財があります。本堂は国、三重写は県、薬師堂は市の文化財です。また、本堂ご本尊の弥勒菩薩は国、三重写ご本尊の日光如来は県、薬師堂の中にある十二神将は市の文化財です。貴重な文化財をじっくりとご覧ください。</p>	<p>慈恩寺の本堂には、茶色と白の2枚の絵馬があります。寒河江の大江氏家臣、藤野右宗達貞重（ごうのめうきょうのしんさだしげ）という人がかいたといわれています。絵馬は、市の文化財に指定されています。ポルトガル人が描かれた南蛮絵馬も見ものです。</p>	 <p>十二神将は、薬師如来・日光菩薩を守っている天部という伝承です。十二神将は、十二支と結びつき、あらゆる時と方向を守っています。十二神将を守っていることはとてもめづらしいです。それぞれ違ったポーズをしています。とてもかわいいです。</p>	<p>鑄鉄仏脚輪は、仏様に供える米をとくものとして使われていた仏具です。現在は、鑄鉄仏脚輪の中に頭を入れると「音返る」「期がよくなる」などのご利益があるといわれています。鑄鉄仏脚輪は、餅巻（しこみ）という餅子で支えています。約400年前のすぐれた技術を見て下さい。</p>	 <p>中央の薬師如来は、薬莖を持っています。向かって右側の日光菩薩は、八咫鳥（やたがらす）がかかれた赤い紐を持っています。向かって左側の月光菩薩は、鳥がかかれた白い紐を持っています。薬師如来、日光菩薩、月光菩薩は、24時間、人々の健康や安全を見守っています。</p>	<p>本堂の天井には、6人の天女と龍が描かれています。6人の天女の輪は、それぞれ楽器を持っています。琴・笙・琵琶・横笛・篳篥・太鼓です。龍の輪の爪が3本なのは理由があります。詳しくは、ガイドで説明します。</p>	 <p>慈恩寺には、よろいを着て踊る「太平楽」という舞楽があります。「太平楽」は、重要無形文化財に指定されています。5月5日の「一切経会（いっさいきょうえ）」という行事で「太平楽」を見ることが出来ます。</p>
--	---	--	--	--	--	--	--

「慈恩寺子どもガイド」の様子

			
		 <p>令和3年 9月28日 「山形新聞」朝刊から</p>	